

## バンダイ金型倉庫直撃!!

今月は静岡某所に眠るバンダイホビー事業部が保存している『超時空要塞マクロス』プラスチックキットの金型倉庫を見学、プラスチックキットの再販全般について金型を管理している影の尽力者、バンダイホビー事業部の村松正敏氏のスペシャルインタビューを掲載しよう。

### ■金型を記録する

—— 本日はお忙しいなか倉庫の取材をさせていただきありがとうございました。村松さんといえばガンブラームの頃に数多くのガンブラの設計を手がけられています。今回の『マクロス』でお世話になるとは思いませんでした。バンダイには創業期からいらっしやったのですか？

**村松正敏氏(以下、村松)** もともとイマイ(今井科学)に昭和41年(1966年)に入社しましたがイマイの倒産騒ぎで、東京に出て金型会社に何年かいてから静岡に戻ってきましてバンダイ模型に入社しました。

—— ああ、そうなんですか。じゃあ当時の職場では…

**村松** 知っている人ばかりでしたね(編注/イマイ倒産後、バンダイ模型に多くの元イマイ社員が入社していた)。

—— 村松さんのように現在でも模型開発の現場に残られている方というのはほとんどいらっしやらないのではないのでしょうか？

**村松** ええ、そうですね。ほかの部署に異動したり、定年退職を迎えたりでほとんどいなくなりました。いまは昔のことを知っている人間ということで金型の管理を任されています。

—— 村松さんの作られた資料データには金型の置き場所やコンディションなど細かい情報も書かれています。そのなかに置き場所についても書いてありました。今日伺った倉庫もそうですが、バンダイの金型はホビーセンターの床下(倉庫になっている)にあるだけではないんですか？

**村松** ええ、静岡周辺の数箇所にあります。用途によって移動させることもあるので、移動も管理の対象です。

—— この記録(金型のリスト)はいつ頃から作られていたのでしょうか？

**村松** こういった資料をデータとして作り出したのは意外と最近で、ここ(バンダイホビーセンター)が出来た2006年の引越しの時にガンブラに限らず未管理の金型がたくさんあって、それを管理するために記録を取りはじめたんです。

—— 村松さんがこのような記録を取っておられる背景にはバンダイが今後の金型の資産活用を脱んできたいということでしょうか？

**村松** そんな大げさなものでもないんです。昔のキットって他のキットに一部金型を流用していたり、クリアパーツのような少ない部品をひとつの金型に集

約したりといったことをしていました。昔はプラモデルのようなものは売れる期間に型が壊れずに成型ができればよかった商品だったんですね。現在行っているのは活用より以前にながどうなっているのかを誰でも把握できるようにしているんです。そうしないと一見不要なものに見えても前記のようなことがあるので、うかつに捨てることはできないんです。

—— なるほど。そういう事情があるんですね。現在は市場が成熟したといえますか、古いキャラクターのプラスチックキットの再販が望まれるような今の状況についてはいかがでしょうか。

**村松** 金型の所在に関しての問題が無いとしても、物理的には、じゃあ実際に金型をメンテナンスしてもそれが見合うのかといった問題があります

—— なるほど。ひとつで3ケタkgの金属ですものね。今日実物に触ってみてよくわかりました。

### ■金型をメンテナンス

—— ああ、よくわからないのですが金型のメンテナンスって実際には何をしますか？

**村松** 補修ですね。金型の事故でいちばん多いのは前に成型した物が残ってしまったまま金型を閉じてしまうことで型に歪みや変形が生じてしまうことです。それがバリの原因になってしまうこともあるんです。

—— 倉庫を見せてもらった際に気になったんですが金型って結構錆びてましたよね。錆を落とす作業とかあるんですか？

**村松** 無いとは言いませんが、金型ってしっかり閉じていけば内側はそれほど錆びたりしないんですよ。

—— そうなんですか。実際にメンテナンスはどのような作業があるんでしょう？

**村松** チェックのために金型を分解して組み立てる作業は小さいものでも結構時間がかかりますし、場合によっては突き出しピンも一本一本抜かなくてはならないんですよ。費用の問題もあります。その上で壊れていたら修繕するのか、しないのか、また部材の問題もあります。現在では手に入らない材料(安全性などの問題で再販がストップするなど)があったりします。実際に1:24スケールの大型戦闘機を再販したときはタイヤはゴムではなく新規金型によるプラスチック製にしました。さっきも言いましたがそれらすべての作業が再販時の費用となります。

—— なるほど。簡単に持ち運び出来ませんし。聞いているうちにただ再販と言っても結構大変そうな気がしてきました。



### 村松正敏(むらまつまさとし)

バンダイホビー事業部の前身であるバンダイ模型の時代からプラスチックキットの開発に携わりガンブラームの頃(81年頃)は数多くのガンブラの設計作業を手がけた当時を代表する開発者。“ザク松”の異名を持つ。

### ■『マクロス』キット再販の可能性

—— ガンブラは比較的定期的にさまざまなラインナップが再販されていますよね。どのキットでも比較的容易に入手できると思うんです。

**村松** そうですね。

—— 今回は再販の有無は別にして、「そもそもバンダイの持っている『マクロス』の金型って何があるの?」ということになりまして、であれば村松さんが金型の生き字引だということで担当さんからご紹介を受けました。

**村松** なかなか当時のことを知っている人もなくなりましたからね。実際『マクロス』はガンブラームに近い時期の製品ですから懐かしいものもあります。

—— では今後、もし『マクロス』キットを再販するとしたら、どのような作業をされることになるのでしょうか？

**村松** バンダイが作ったものは把握していますが、旧イマイの『マクロス』のようなケースでは、どのキットを所有しているか、その金型が揃っているか調べるところからですね。

—— なるほど。今後の再販の可能性については、期待して良いのでしょうか。

**村松** 手持ちの資料データに記載されているものに関しては再販できる可能性はあると思います。もちろん金型の状態などを今後確認していく必要はありますが、—— 本日はどうもありがとうございました。

(2010年4月1日、バンダイホビーセンターにて収録)